



学校だより

新潟市立中之口東小学校 2025. 9. 26
第389号 児童数110名
ホームページ
<https://www.kiranico.jp/>



まちがえるからできる

校長 小森 康貴

皆さんは、子どものころ次のような経験をしたことはありませんか。

「まちがえたら恥ずかしいので手を挙げるのをやめた」「まちがった答えを言ったら笑われた」

私は何回もあります。思い出すと恥ずかしくなります。今でも、まちがえずに振る舞いたいと思います。しかし、まちがえない限り、できるようになることはありません。

例えば、レストランでのテーブルマナーを身につけたいと思ったとき、マナー本を何回読んでもできるようにはなりません。実際にレストランに行ってやってみないとマナーは身につきません。もちろん、最初はうまくできません。それでも、マナー本に書いていることを何度も繰り返すことでマナーが身につきます。スマートに食事をする自信がないから、あるいは、間違った振る舞いをして恥をかくのが嫌だからとレストランに行かなければ、いつまでたってもマナーは身につきません。

新しいことができるようになるには、必ずまちがう必要があるのです。

学校の授業も同じです。できることばかりを繰り返しては、新たにできるようになることはありません。「 $1+1=2$ 」を100回練習しても、ひき算やかけ算ができるようにはならないのです。

まず、実際にやってみて、まちがえます（その時点で、まちがえないということはすでにできているということになります）。次に、なぜまちがえたのか考えます。分からなければ周りの人に聞きます。そして、やり方を変えてもう一度やってみます。この繰り返しができるようになるための唯一の方法だと思います。しかし、次のような環境ではどうでしょう。

「『そんなこともできないのか』と言われる」「まちがえると叱られる」

これではまちがえることができません。まちがえることができないということは、できるようにならないということです。これでは子どもは伸びません。

逆に、次のような環境ではどうでしょう。

「できないことを聞いたら親切に教えてくれる」「まちがえたら励ましてもらえる」

これならまちがえることができます。まちがえることができるということは、できるようになるということです。これなら子どもは伸びます。

私が子どものころに過ごした学校は、授業でまちがえると叱られました。劣悪な環境だったと思います。そのようなことがないように、職員に対しては、まちがいを受容するような授業づくり、学級づくりに努めるように話をしています。保護者の皆さんも、お子さんがまちがえたときは、できるようになるチャンスと思い、受け入れ、励ましてください。よろしくお願いします。